

アクティブラーニング型授業の展開

話の構成:

- ①アクティブラーニングの背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開
- ④ピアインストラクションの紹介

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科)

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

1/30

Slide1

今日の話

- ①アクティブラーニングの登場の背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開

*

Slide2

教授学習観の転換:「教える」から「学ぶ」へ

From Teaching to Learning

・米国の国家レポート(1983):

「これからの(アメリカの)卓越した高等教育の基本的考え方は、学生の学習を中心とした教育をおこなうことである。」(p.v)

参考: The Study Group on the Conditions of Excellence in American Higher Education (1983). *Involvement in Learning*.

・教員は何を教えるかではなくて、学生が何を学んだのかを指標として、FDや教育改善をおこなう。

参考:

- ・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change*, 27 (6), 12-25.
- ・Tagg, J. (2003). *The learning paradigm college*. Bolton, Massachusetts: Anker.

2

Slide3

「学生の学びと成長」の場としての大学教育

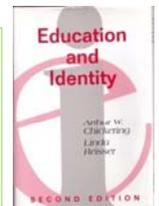
Student Learning and Development

大学教育は学生の価値や思考法、学習様式、対人関係・文化的スキルの発展に関心を持つべきである。

第1版“Education and Identity”が1969年に出版されたとき、多くの大学関係者はこの考えに賛同しなかった(Chickering & Reisser, 1993)。

参考:

- ・Chickering, A. W. (1969). *Education and identity*. San Francisco: Jossey-Bass.
- ・Chickering, A. W., & Reisser, L. (1993). *Education and identity*. 2nd ed. San Francisco: Jossey-Bass.



2

Slide4

1. 知識・理解	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。 (1)多文化・異文化に関する知識の理解 (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
2. 汎用的技能	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1)コミュニケーション・スキル（日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる） (2)数量的スキル（自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる） (3)情報リテラシー（情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる） (4)論理的思考力（情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる） (5)問題解決力（問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる）
3. 態度・志向性	(1)自己管理能力（自らを律して行動できる） (2)チームワーク、リーダーシップ（他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる） (3)倫理観（自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる） (4)市民としての社会的責任（社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる） (5)生涯学習力（卒業後も自律・自立して学習できる）
4. 統合的な学習経験と創造的思考力	これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

参考：中央教育審議会答申『学士課程教育の構築に向けて』（2008年12月24日）

知識習得の場としての大学



知識習得の場
+
【拡張】知識活用能力養成の場

アクティブラーニング
(AL:Active Learning)

ジェネリックスキル

参考：
・溝上慎一 (2012). 学生の学びと成長 京都大学高等教育研究開発推進センター (編) 生成する大学教育学 ナカニシヤ出版 Pp.119-145.

今日の話

- ①アクティブラーニングの登場の背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開
- ④ピアインストラクションの紹介

*

定義：
 ・授業者からの**一方向的な知識伝達型授業(学習者の受動的な学習)**から、学習者の**能動的な学習**を取り込んだ授業への転換を目指す**再広義の教育政策用語**。
 ・「**アクティブラーニング型授業**」等として使用されるべきである。

【メモ】海外の文献を参照して、学習の「能動性(active)」をもって定義しようとするものがあるが、あれは△だと思う。(溝上)

高次の認知活動(理解・記憶・再生・論理的/批判的/創造的思考・推論・判断・意志決定・問題解決など)からアウトプットにつながる過程のあらゆる活動

参考文献：
 溝上慎一 (2011). アクティブラーニングからの総合的展開—学士課程教育(授業・カリキュラム・質保証・FD)、キャリア教育、学生の学びと成長— 河合塾 (編) アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか—経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと— 東信堂 pp.251-273.

さまざまなAL型の授業

・学生参加型授業

e.g. コメント・質問を書かせる/フィードバック、理解度を確認(クリッカー、授業最後/最初に小テスト/ミニレポート)

・各種の共同学習を取入れた授業

e.g. 協調学習/協同学習

・各種の学習形態を取入れた授業

e.g. 課題探求学習/問題解決学習

・PBLを取入れた授業

e.g. Problem-Based Learning / Project-Based Learning

・ピアインストラクション

3

Slide9

AL型授業の質を高める装置

・書く・話すというアウトプットの活動

コメント用紙、レポート、ディスカッション、討論、プレゼンテーションなど

・さまざまな他者の視点を取り入れ、自己の理解を相対化させる

学生同士、教員、専門家・地域住民など外部者など

・宿題・課題を課す (授業外学習)

・新たな知識・情報・体験へアクセスさせる

調べ学習、体験学習

・リフレクション

形成的・総括的評価

・多重評価

小テスト、発表、質問、プレゼンテーション、学生同士のピア評価など

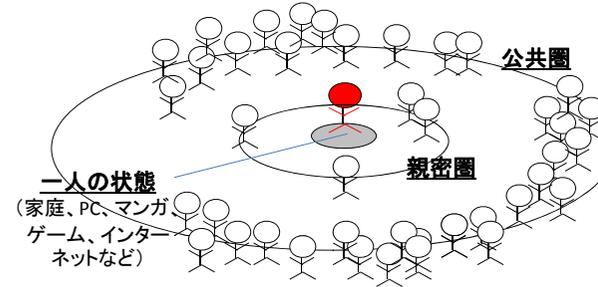
POINT2: Active Communication

公共圏の他者とのコミュニケーション

POINT1: Active Involvement

(課題・他者)への積極的関与

公共圏とは？



親密圏と公共圏で異なるのは、コミュニケーションを媒介する知がより共有されているかされていないかにある。

公共圏の人とコミュニケーションするには、
・世界観や立場の異なるさまざまな他者への興味・関心
・さまざまな知識・教養
・国際的には英語力が必要

2つの対人コミュニケーションモード

・親密圏... 親密との他者との関係からなる領域

ex. 旧友、携帯、メール友達

・公共圏... 親密ではない、しばしば見知らぬ他者との関係からなる領域

ex. クラスメート、ゼミ、ビジネスなど

参考: 浅野智彦(編)(2006). 検証・若者の変貌—失われた10年の後に— 勁草書房

3

Slide10

今日の話

- ①アクティブラーニングの登場の背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開
- ④ピアインストラクションの紹介

*

Slide11

①知の重視

学習への深いアプローチ

(Deep Approach to Learning, Ference Marton)

与えられる知識や課題を記憶・習得する「浅い学習 (surface learning)」を越えて、主体的に既存の知識や経験に関連づけて理解する学習のこと。

アクティブラーニング

ディープラーニング

学習の形態を強調

学生参加、協同/協同学習、問題解決

学習の質を強調

概念を既存知識や経験と関連づける



学習の質にこだわってこそ(=ディープラーニング)、ジェネリックスキルは磨かれる。

参考:

エントウイスル, N. 山口栄一訳 (2010). 学生の理解を重視する大学授業 玉川大学出版部

3

Slide12

②アクティブラーニングのカリキュラム化

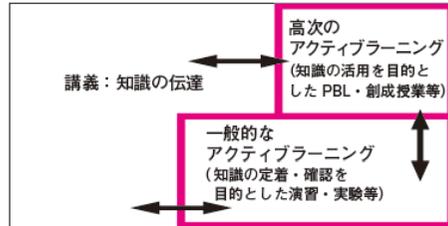
- ・授業A(→AL型授業)
- ・授業B(→AL型授業)
- ・授業C(→AL型授業)
- ⋮
- ・授業N(→AL型授業)

Example

Course unit/ learning outcome	Competence							
	A	B	C	D	E	F	G	H
Unit 1		X			X			
Unit 2	X			X		X		
Unit 3		X				X		X
Unit 4	X		X					X

X = THIS COMPETENCE IS DEVELOPED AND ASSESSED AND IS MENTIONED IN THE LEARNING OUTCOME OF THIS UNIT
Management Committee

カリキュラムマップによる組織的整理



参考文献:

河合塾(編)(2011). アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか—経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと— 東信堂

2

Slide13

③週複数回授業

- ・週1回の授業では、学習の質に深く迫れない。宿題や予習などと授業内容との関連づけが時間配分的に難しい。
- ・講義と演習(seminar/tutorial)とのコンビネーションが理想的。

表 北米の典型的な講義+演習の授業システム

月	水	木
講義1h	講義1h	演習1h

*3セメスター単位の例

2

Slide14

今日の話

- ①アクティブラーニングの登場の背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開
- ④ピアインストラクションの紹介

*

Slide15

3

今開発しているピアインストラクション

Slide16

Dr. Eric Mazur: Harvard Professor of Physics



溝上: 2012年度前期全学共通科目『自己形成の心理学』 主に1-2年生200名



POINT:

- ・学生を居眠りさせないためのクリックャーではない!
- ・Active Involvement/Active Communicationのためのクリックャー

驚いたのは...

Use the statement and figure below to answer the next two questions (15 and 16).

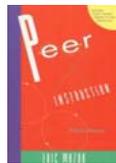
A large truck breaks down on the road and receives a push back into town by a small compact car as shown in the figure below.



15. While the car, still pushing the truck, is speeding up to get up to cruising speed.

1. the amount of force with which the car pushes on the truck is equal to that with which the truck pushes back on the car.
2. the amount of force with which the car pushes on the truck is smaller than that with which the truck pushes back on the car.
3. the amount of force with which the car pushes on the truck is greater than that with which the truck pushes back on the car.
4. the car's engine is running so the car pushes against the truck, but the truck's engine is not running so the truck cannot push back against the car. The truck is pushed forward simply because it is in the way of the car.
5. neither the car nor the truck exerts any force on the other. The truck is pushed forward simply because it is in the way of the car.

なんと、本のほとんどのページ(pp.43-242)はクリッカー課題(+ConceptTest)で占められている！ 良い問題こそが質の高い学習を促す。



Mazur, E. (1997). *Peer instruction: A user's manual*. New Jersey: Prentice Hall.

Slide17

2

まとめ

①アクティブラーニングの登場の背景

「教える」から「学ぶ」へ／学生の学びと成長／ジェネリックスキル

②アクティブラーニングとは

定義／さまざまなAL型授業／AL型授業の質を高める装置

③アクティブラーニング型授業の展開

知の重視／ALのカリキュラム化／週複数回授業

④ピアインストラクションの紹介

ご清聴有り難うございました

Slide18

1

興味があればお読みください

溝上慎一 (2006). 大学生の学び・入門—大学での勉強は役に立つ！— 有斐閣アルマ.

【関連】学習やキャリア意識をいかに日常課題とさせるかを論じた本。初年次教育テキスト。



溝上慎一 (2010). 現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ— 有斐閣選書

【関連】青年期の現代への変貌を歴史的・社会的に概説しつつ、学習やキャリアが、大学生にとっていかに現代的な青年期課題になっているかを説明したもの。



クリッカーに関する問い合わせ

【連絡先】 株式会社 西日本大学営業部

担当: 日紫喜、土井

電話: 06-6920-2487

*溝上に問い合わせてもかまいません。

Fax: 06-6920-2788

mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

講師プロフィール

1970年生まれ。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手・講師を経て、2003年より京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。京都大学博士(教育学)。

大学院教育学研究科兼任。大阪府立大学学長補佐兼任。



<http://smizok.net/>

日本青年心理学会理事、日本発達心理学会理事、日本心理学会地域別代議員(近畿)、大学教育学会常任理事、『青年心理学研究』編集委員、『発達心理学研究』編集委員、『教育心理学研究』常任編集委員、『Journal of Adolescence』Editorial Board、『International Conference on the Dialogical Self』Scientific Committee。公益財団法人電通育英会大学生調査アドバイザーほか。

専門は、青年心理学(現代青年期、自己形成、自己の分権化、アイデンティティ資本など)と高等教育(大学生の学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事へのトランジションなど)。著書に『自己形成の心理学—他者の森を駆け抜けて自己になる』(2008世界思想社、単著)、『現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ—』(2010有斐閣選書、単著)、『大学生の学び・入門—大学での勉強は役に立つ！—』(2006有斐閣アルマ、単著)など多数。